

広報すぎなみ

Suginami



みどり豊かな 住まいのみやこ

{ 5/15 }  
令和4年(2022年)  
No.2329

歴史が見えると、  
風景が変わる。

いつも何げなく眺めている景色でも、そこに流れるストーリーを知るだけで、遠い昔の風景に出会えるのだと建築史家の陣内秀信さんは話します。文章を解き明かすようにまちを読めば、過去と現在、そして未来が見えてくる。今年90周年を迎え、100年目へと向かう杉並区に対して、建築史家の視点からまちづくりのヒントを伺いました。

特集



すぎなみピト

建築史家

陣内 秀信



〒166-8570 杉並区阿佐谷南1-15-1 ☎ 3312-2111(代表) FAX 3312-9911(広報課直通) 📄 区ホームページ: <https://www.city.suginami.tokyo.jp/> 📄 発行: 杉並区 📄 編集: 広報課

お知らせ

新型コロナウイルスの感染状況によっては、本紙掲載の催し等が変更・延期または中止になる場合があります。最新情報は、区ホームページまたは区(地震・水防情報等)ツイッターをご確認ください。

広報すぎなみは月2回(1・15日)発行。新聞折り込みのほか、区の施設・駅・コンビニエンスストアなどの広報スタンドに設置しています。



杉並区区制施行90周年



# 杉並のまちを読んで見えてきた、太古の暮らし、武蔵野の風景、近代の文化

## 「建築の素」となる歴史を学ぶためにイタリアへ

— 先生が建築史に興味を持たれたのはなぜだったのですか？

建築は大昔から存在する、人間の文化そのものです。エジプトのピラミッド、ローマのパテオンの時代のように大きく進化したこともあれば、逆に停滞して退化した時代もある。進化と退化を繰り返しながら現代に至っているわけで、言い方を換えれば、現代が必ずしも究極の進化形ということではないのです。とすれば過去の優れた建築は、現在そして未来の建築がより良くなっていくための発想の源となり得るのではないかと。僕はそういった「建築の素」となる歴史を勉強したくて、中でもモニュメントとしての建築ではなく人々が暮らす住居や集落、まち並みの歴史を知りたいと関心を持ち建築史の研究を始めました。

— 大学院時代には研究のためにイタリアに渡られたそうですね。

昭和48年にベネチアへ留学しました。イタリアは長い歴史があり、建築史を研究するには最高のフィールドです。イタリアの随所を巡って気付いたのは、日本と似ているということでした。四季がはっきりしていて、南北で気候が異なる。自然が豊かで、山・谷・海・湖・川・平野があり、一つの国の中で地形が変化に富んでいる。そのロケーションに合わせて民家の在り方もさまざま。どのまちも古くからの建物をうまく保存し、再生しながら、人々が生き生きと暮らしているのが印象的でした。

— 特に印象深かったのはどのようなまちでしたか？

一つは、自身が留学時代に暮らしたベネチアですね。歴史そのものが舞台になっているようなまちでありながら、暮らし方や考え方といったコンテンツは新しい。狭い道でたくさんの人と出会い、立ち話をしながら歩くので、約束の場所に行くときは早めに家を出なければなりません(笑)。それからもう一つ、南イタリアのチステルニーノという小さなまちも強烈なインパクトを残しました。石灰を塗った真っ白い雪景色のような石造りの住居群は中世からの積み重ねでできた風景。建築の言葉で「ヴァナキュラー(土着的)」と表現しますが、自分が学んできた近代都市計画なんて一体何だったのか？ と思ってしまうほどの迫力がありました。



ベネチア留学時代(昭和49年)



プロフィール：陣内秀信(じんない・ひでのぶ) 昭和22年生まれ。東京大学大学院工学系研究科博士課程修了。昭和48年よりイタリアのベネチア建築大学に留学しフィールドワークを実施。帰国後、江戸・東京をはじめ国内外のさまざまなまちの研究に尽力する。法政大学工学部建築学科特任教授。専門はイタリア建築・都市史。サントリー学芸賞受賞の「東京の空間人類学」(筑摩書房)をはじめ著書多数。幼少期を杉並区成宗(現・成田)で過ごし、現在も在住。

すぎなみビト × 陣内秀信 建築史家

— イタリアでのフィールドワークを終えた後、東京のまちの研究にも着手されていますね。

イタリアで研究をする中で、都市を「計画する」でも「設計する」でもない、「読む」ということを身に付けました。都市というのはいろんな人が関わり、いろんな歴史が積み重なり、既存のものが集積してつくられている。そういった都市を構造(文法)、エレメント(単語)と捉えて、文章を解き明かすように読むのです。イタリアで得たこの手法で、帰国後にまず東京の山の手エリアを読むことに取り組みました。一見すれば東京のまちは近代で大きく変化したように見えるけど、解き明かしていくと全てに過去からのストーリーが流れていて非常に面白かった。江戸の城下町である山の手は名作だな！と感じました。その後、杉並を含む山の手の外側についても読むことを始めました。

## 杉並のまちの最大の特徴は「川」と「鉄道」

— 杉並は先生が2歳のころから日々を過ごした故郷であり、今もお住まいだそうですよね。

僕が幼少期を過ごしたのは、まだ「成田」の地名が「成宗」だった頃。かつての武蔵野の風景がそのまま残る中、自然と共にたくましく育った世代です。青梅街道の表通りから下っていくと坂道の途中に成宗須賀神社があり、さらに下るとその先には一面の水田が広がっていて、春先はレンゲ草がとてもきれいでした。やぶもあって、よくターザンごっこをしていましたね。家は路地にあり、隣近所の付き合いがかなり

生きているコミュニティで、路地の脇道に入ればそこは子どもたちの天国。缶蹴り、かくれんぼ、三角ベースなど夢中になって遊んでいました。水道はまだ共同水道で、みんなが銭湯に通っていたような時代です。

— 杉並のまちが変化していく様子もご覧になられたんですね？

まちが変化するさなか、小学4年生の途中から中学3年生までは父の仕事の関係で杉並を離れていて、戻ってきたときにその変化の大きさに驚いたことを覚えています。5年半ほど留守にしていた間に風景が一変していた。ターザンごっこをしていたやぶはすっかりなくなって宅地になり、水田が広がっていた場所にはピカピカの阿佐ヶ谷住宅が建っていました。都電もなくなって、線路が高架になったことで開かずの踏切も姿を消し、近代の輝く産物があふれているような雰囲気でした。

— 今、建築史家として杉並を「読む」と、どのようなことが見えてきますか？

杉並には神田川、善福寺川、桃園川、妙正寺川と、暗渠も含めて川が4本も流れているのが特徴的です。古くから人々は水に興味を加えてさまざまなものを分布してきたので、川はまちを読むのにもとても重要です。川を起点にすると、地形や湧き水・遺跡・古道などが見えてきます。そのように杉並を読んでいくと、太古の杉並の風景が見えてくると同時に、僕が子ども時代を過ごした頃の杉並の風景にも重なってきます。一方で、古くからの歴史が見えてくるだけでなく、まちに根付いた近代の文化も見えてくるのが、杉並を読んでいて面白いところです。

— それは例えばどのような文化ですか？

杉並には鉄道がたくさん通っていますよね。鉄道が多いということは、駅が多い。これは建築史をひもとく上で興味深い点です。駅には人々が集うので、それぞれの駅の周りに独特の文化が育つ。飲み屋もそうですし、喫茶店・古本屋・古着屋・映画館・劇場など、さまざまな文化が生まれてきます。中でも高円寺、阿佐ヶ谷、西荻窪といった駅は、休日に快速電車が止まらないのがポイントです。だからこそローカルであり、自然体の文化が生まれやすいのだと僕は考えています。このような知識を少し備えてまちを歩くと、いつもの風景がまったく違って見え、見慣れたものにも価値が見えてくるから面白いですよ。



杉並じゃなきゃ実現できない、そんなまちづくりを

— 建築史家として、未来に残したい杉並の風景は何ですか？

屋敷林や緑地などの自然、そして農地ができる限り維持されることを願っています。農業の重要性を見直しスローフードで成果を上げてきたイタリアのように、杉並でも都市農業を守りながら地産地消を大切にしていけるといいですね。また、杉並の特徴ともいえる商店街の存在は貴重だと僕は考えています。商店街という身近なコミュニティは高齢化が進む中でより大切な役割を担っていくはずですよ。

— 100年目に向かう杉並。どんなまちになっていくことを願いますか？

ポストコロナの考え方の一つに「15分コミュニティ論」というものがあり、各国で注目されています。徒歩や自転車、電車でアクセスできる15分圏内に、店や病院や学校など全てのものがそろったコミュニティにしようという考え方です。これを実現するのに杉並はぴったりだと僕は思っています。あとは農業や商店いずれにおいても、伝統を継ぎつつ若い世代がイノベーションを生み出していくことが重要になってくるのではないのでしょうか。一つは自然や農地、もう一つは商店街をはじめとする駅前コミュニティ。この二つのベクトルがうまくつながることで「杉並じゃなきゃ実現できないよね」という唯一無二のまちができるのではないかと楽しみにしています。

## Information

90周年を迎える区のこれまでの歩みはこちらから！

区ホームページでは、「杉並区制施行90周年」特設ページを開いています。「すぎなみ5ストーリーズ」として区の歴史を語る上で欠かせない出来事を紹介しています。そのほか、90周年を祝うイベント等の情報も掲載していきます。ぜひ、ご覧ください。



YouTubeで配信中！

紙面には掲載しきれなかった取材のこぼれ話も動画で紹介しています。

すぎなみビト MOVIE

すぎなみビト「陣内秀信さん」のインタビューが動画でも楽しめます。右2次元コードからご覧いただけます。



杉並区公式チャンネル